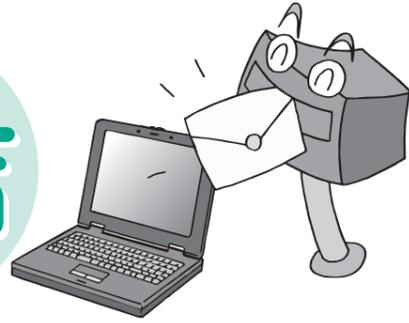


みんなの わたしの声



今回、「絆」では、「健康」についての特集を組みました。そこで、市民のみなさんから「健康」に関するご意見・ご提案を広く募集したいと思います。

今後、テーマ別に、皆さんからのご意見の多かったものや生活に密着したものを中心に掲載していきます。ただし、個々のご意見・ご提案には直接回答はいたしませんので、あらかじめご了承ください。

皆さんのご意見・ご提案を参考にしながら市政に反映し、よりよいまちづくりを進めていきます。皆さまの貴重なご意見をお待ちしております。

あて先

〒869-0592（住所不要）

宇城市役所 総合政策課「みんなの声、わたしの声」係

Eメール sogoseisakuka@city.uki.lg.jp

☎ 32-1111 Fax 32-0110

※差し支えなければ氏名・住所・年齢をご記入ください。意見を紹介する際には、氏名は掲載いたしません。

土木部、教育委員会が移転

本庁舎外で業務を行っておりました**土木部**と**教育委員会**が7月23日（月）から、本庁舎において業務を行います。

市では、行財政運営の効率化と市民サービス向上を図るため、本庁集中体制整備に向けて取り組んでおりましたが、今回の移転により、分散していた機能を集約することで市民の方々の利便性と行政サービスのスピード化を進めることができます。

○**土木部** 本庁舎2階北側

○**教育委員会** 本庁舎3階東側

下記部署の配置場所も7月23日（月）から変更になります。

○**企画部** 本庁舎3階西側

○**農業委員会** 本庁舎1階ロビー南側

☎ 総務部財政課財産管理係

☎ 32-1111（内線1242）



宇城市の家計

財政課長

清原 修



皆さん、月収40万円の生活から35万円になったらどうしますか。食費や洋服代を節約したり、光熱水費を節約したり、車や電化製品の買い替えの見直しをしたりなど・・・、家計を預かる人のやりくりで賄うのが一般的だと思います。

それでは、さらに30万円の生活を余儀なくされた時は、どうしますか。家計を預かる人のやりくりだけでは、どうしてもなく、家族一人一人の協力が必要になってきます。「金の切れ目は縁の切れ目」と言う言葉もありますが、辛抱や我慢だけでは、家族の絆に影響を及ぼすことにもなりかねません。辛抱しながらでも、明るい将来が見えるような生活設計が必要となってきます。まさに、現在の宇城市は、それと同じ課題に直面しているところです。

本市の家計は、かなり低い評価にあります。その要因は、預金を解約しなければ生活できないことと将来負担がかなりあるところからです。

まずは、一日も早く、預金を食いながらの生活に終止符を打つこと、まだまだ改善の余地は十分にあると思います。自分の課・係では何を見直すべきか、今まで以上に突っ込んだ議論が大事となります。と同時に、「厳しいから何もしない・何もできない」ではなく、厳しいからこそ、将来に明るい展望を描きながら、現在を見直す必要があります。将来にどんな花を咲かせたいのか、そのためには、どんな土づくりをすれば良いのか、どんな品種を選べば良いのか、職員一人一人が考え、組織的に議論・検討を行い、取り組むことが大事だと考えます。

本市の税収は、歳入の20%しかありません。財源的には苦しい自治体ではありますが、夕張市のように破綻することはありません。将来も財政的には、裕福にはならないかもしれませんが、市民が幸せを実感できる「まちづくり」に職員一丸となって挑戦しようではありませんか。

健康が一番

都市整備課長

西山 憲二



私は、4月に60歳になり、行政マンとして最後の年を迎えました。なにより「健康が一番」です。健康であることに感謝し、仕事ができる喜びをかみしめ、退職の日まで仕事を全うしたいと思っています。

皆さんは、日頃健康管理はどのようにしていますか。

今も昔も「健康」というものが、幸福の第一条件であることには変わりありません。人は誰も年齢を重ねてくれば、健康管理に気を使うようになるものです。私も前回の健康診断では、気になる点がいくつかあり、日ごろの不摂生を改め、予防に努めなければと痛感致しております。

私は現在、一日40分以上掛けて、足早でのウォーキングを心がけ、食べ過ぎないように注意しているつもりです。一日3食を守り、昼は弁当持参、夜は適度の晩酌付きの夕食を活力源としておりますが、なかなか体重の方は減ってくれません。3年前に入院した時は、体重が10kg減りましたが、最近はもとに戻りつつあります。

「健康は自ら築き上げるもの」と言われております。日ごろの生活習慣など身の回りの見直しをしていくことが、今の自分には大切かと思っております。

さて、合併して2年余り、「行政改革と組織機構の再編」、「目標管理による行政運営の推進」などが実施され、職員も意識改革に取り組んでおられるところであり、私は、職務を遂行するにあたり、この次ではなくその場でできる限りのサービスを尽くす「一期一会」の精神に基づいた接客の心構えで対応したいと考えております。

市民の皆さまから「宇城市に住んで良かった」と言われるには、「今、何をすべきか」を職員一人一人の責任で、取り組んでいこうではありませんか。そのためにも、健康管理には十分注意され、市民全体の奉仕者として「個人と組織の目標管理」の継続性をプラス志向で頑張りたいと思います。

行政はチームプレー

健康づくり推進課長

高本 敬義



4月の終わりに休暇を利用し、甲子園の選抜高校野球を見に行ってきました。最初の試合で雨が少し降りましたが、気持ちのいい応援ができました。連れて行ってもらった家族に感謝、感謝です。

ご存知のように九州代表の熊本工業は、その後ベスト4まで勝ち進みましたが、テレビなどでいろんな試合を見て感じたことがあります。それは、監督の判断、采配、指示がいかに難しいかということです。

試合という先の見えないいろんな局面で、どのチームもそれぞれのチームカラーはありますが、監督の采配で、ピッチャーを早い段階で代えたり、攻撃の時に打って出て強攻策を取ったり、1点を取りにスクイズをしたり、それで試合が決まることも多いということです。

野球と職場を一緒にしようとは思いませんが、似たようなことが私たちの職場にもあるようです。事を進める時、相談を受けた時、職場の先輩として、あるいは係長、課長、部長などの上司として、それぞれの立場で判断、指示すべき時があります。判断しかねて悩む時もあります。これらに対応するには、日ごろからの業務に対する研鑽は言うまでもありませんが、行政はチームプレーがあってこそより良いサービスが提供できるものと思いますから、チームプレーができる形を作ることも大事かと思えます。

チームプレーができる形。それは、トップダウンだけでなく、ボトムアップだけでなく、誰もがモノが言える職場を作ることだと思います。そこから、職場なり部署の組織目標や展望も生まれ、お互いの信頼関係の下に気持ちよく仕事ができるでしょうし、悩みやストレスも解消できるかもしれません。そんなことを心掛けて、仕事に取り組んで行きたいと思えます。

挑戦し続ける 現場の声

職員が変われば まちは変わる

宇城市では毎週金曜日の朝、庁内放送で幹部職員が自らの経営方針を発表しています。

「有言実行」職員が自らの目標を公言し、その答えを出すために努力をすれば必ず実現することができる。それが、市民満足度を高めることになり、まちを変えることになりました。

その中の一部を皆さんにご紹介いたします。

日々の思いを 熱く語る!!